

ベトナム Anti-TIP ほっとライン便り

被害者支援及びカウンセリングのための人身取引対策 (Anti-TIP) ホットライン運営強化プロジェクト ニュースレター

今回の内容

- ・人身取引反対世界デーの啓発イベントが開催されました
- ・ベトナム女性連合と共同で制作したアニメーションフィルムが完成
- ・カウンセリングの質の外部評価を実施しました！
- ・カウンセリングの質の評価結果は？
- ・外部評価者 Duc さんからのメッセージ



ゲアン省で開催された人身取引版世界デーのイベントの参加者

人身取引反対世界デーの啓発イベントが開催されました

7月30日の人身取引反対世界デー (World Anti-TIP Day) に合わせ、ベトナムでも公安省 (MPS)、ベトナム女性連合 (VWU) 等が主催する啓発イベントが開催されました。昨年は北部国境地域のランソン省で開催されましたが、今年は北中部のゲアン省が開催地に選ばれました。ゲアン省はラオスとの国境があり、人身取引犯罪の多発地域のひとつです。

7月29日のプレイベントでは、VWUの副代表の出席の下、約300名のVWUスタッフ、学生、一般市民、警察、ドナーが参加しました。また、30日には、副首相の出席の下、約500名の中央及び地方の政府関係者及び学生、ドナーが参加し、人身取引に関する啓発を行いました。

プロジェクトでは、イベント期間中に関係者が着用するTシャツの作成を支援するとともに、大勢が集まるイベントの機会を利用して、リーフレットやカードなどの広報資材の配布を

行いました。残念ながら、日本人専門家が現地に行くことはできませんでしたが、カウンターパート機関であるDCAと、プロジェクトの現地スタッフがホットラインのブースを構え、ホットラインを多くの人に知ってもらうための広報を行いました。

また、人身取引反対世界デーに合わせ、TVでのCM放映や、ラジオメッセージの放送、雑誌への広告掲載など、全国を対象とした広報を同時に実施しました。今後も引き続き、積極的な広報活動を展開していきます。



ホットライン 111 の広報ブース



ホットラインの Facebook もあります。是非一度ご覧頂き、よろしければ「いいね！」をお願いします！皆様にページをご覧頂くことで、人身取引被害者の方々が、より一層このページにアクセスできる可能性が広がります。

「Tong Dai 111」(ホットライン 111) と検索頂くか、右のQRコードからアクセスをお願いします。



なお、本ニュースレターはプロジェクトの進捗状況や周辺情報をお知らせするためJICA 専門家の見聞をお送りしています。JICA 及びカウンターパートの公式見解ではありません。また、無断転載はご遠慮下さい。

ベトナム女性連合 (VWU) と共同で制作したアニメーションフィルムが完成

VWU と共同で制作に取り組んできたアニメーションフィルムが完成しました。約5分のこの映像作品は、全国各地の女性連合職員による草の根レベルの啓発活動に活用されます。ターゲットは主に農村地域の女性であることから、当初は少数民族言語の字幕をつける予定でした。しかし、VWU と打ち合わせを重ねる間に、少数民族の人々が字幕文字を読めないケースもある、という意見が出てきました。メッセージをより広い層に伝えるためには、字幕よりも吹き替え版の方が有効です。そのため、現在少数民族言語の吹き替え版の制作も進めています。対象言語は、H'mong 語 (北部・中部)、Thai 語 (北部)、Bru 語 (中部)、Khmer 語 (南部) を予定しています。なお、ストーリーの概要は次の通りです。



—あらすじ—とある貧しい農村に Na という名前の女の子がいました。Na は同じ村に住む Tu に誘われて、中国で高収入の仕事に就くことになりました。怪しい話に心配する家族や友人が「ホットライン 111」に相談することを勧めますが、Na は信頼できる幼馴染の紹介だからと、気に留めることはありません。出発の日、Na は Tu のバイクで中国との国境に向かいます。道中、国境警備隊に止め

られ、身分証明書の提示を求められると、Tu は突然逃げ出しました。Na が困惑していると、国境警備隊に手錠を掛けられた Tu が戻ってきました。Tu は、Na を騙して、中国に連れていくつもりだったのです。Na は幼馴染に騙されたことに大きなショックを受けますが、無事に家族の元に帰ることができました。

この映像作品が自分の身にも起こり得る犯罪として、視聴者が人身取引を考えるきっかけになってくれることを期待しています。



アニメーションビデオの登場キャラクター

カウンセリングの質の外部評価を実施しました！

新型コロナウイルス感染症の影響により、日本人専門家の現地派遣や現地での電話相談員研修の実施が難しい状況であるため、プロジェクトでは、ベトナムの心理カウンセリングの専門家2名(Dr. Tran Thi Minh Duc及びDr. Nguyen Thi Hai)に、カウンセリングの質の評価をして頂きました。地方コールセンターである、ダナンとアンザンのコールセンターで、プロジェクトが開始した2018年11月

から、2020年4月までに扱った、児童保護のケースを含む734件のカウンセリング・レファラルのケースについて、評価をして頂きました。そのうち人身取引に関する10件については、特に詳細な評価を行いました。

ダナンとアンザンにはそれぞれ5名(一時は6名)のカウンセラーがおり、ケースによって一概には言えないものの、各自1カ月間で、1~12件のケースを担当していました。



ハノイオペレーションセンターの様子

カウンセリングの質の評価結果は？

電話相談員によるカウンセリングの質は、プロジェクト開始当時から、2020年4月にかけて、着実に改善してきました。それでも、特にプロジェクトの初期において、次のような課題がありました。

カウンセリング知識・技術について

- ✓ 秘密厳守についてきちんと伝え、相談者がより具体的な情報を提供できるようにしなければならない。
- ✓ カウンセラーが相談者の問題やニーズを的確につかむことができず、相談者が不満を感じて電話を早々に切り上げているケースがあるため、カウンセラーの質問の技術を高める必要がある。
- ✓ 相談者(特に青少年)が周囲の人の文句ばかりを言う相談の場合、カウンセラーは単に相談者に親身になって話を聞くだけでなく、教育的な意味で、相談者の気持の持ち方・考え方を提案する方が良い。
- ✓ カウンセラーは早計に解決策を提案することを避け、相談者の話をきちんと聞き、問題を的確につかむ必要がある。
- ✓ 質問の技術を高める必要がある。あまり関係のないことについて質問するのでは

なく、相談者が提供している不明確な情報について、確認の質問を忘れずに。

- ✓ ホットラインに何度もかけてきている人で、児童の性的虐待の「加害者の兄弟」ではなく加害者本人ではないかと疑われるケースがある。どこからが犯罪にあたるのかについての情報提供をしていないのはカウンセラーとして適切である。一方で、近くに被害者の子どもがいないか確認する必要がある、相談者があいまいな部分は確認する必要がある。
- ✓ 問題を抱えている当事者や同居している両親ではなく、親戚、友人等が相談者である場合、具体的な情報を持っておらず最終的解決は難しい。持っていない情報について質問し続けるのではなく、当事者あるいは両親がホットラインにかけようお勧めする方が良い。
- ✓ 相談者の年齢に応じた、わかりやすい表現を心掛けるべき。
- ✓ ホットラインに何度もかけてきている人で、いたずら電話である(虚構を話している)と判断できる場合は、カウンセリングを終了して良く、相談者は誠実に事実を語って頂く必要があることを伝えるべき。

- ✓ 痲癢などカウンセラーがその精神症状について十分な知識を持っていない場合は、専門家に確認してかけ直すこと。
- ✓ 離婚して親権が父方にある場合の、父の娘に対する性的虐待に関する母親からの相談については、父母の経済状態についても確認し、必要な場合は支援につなげるよう心掛けること。

介入・レファラルの際の技術について

- ✓ 人身取引が疑われるケースで、相談者が焦っていても振り回されず、レファラルをできるだけ十分な情報を集める必要がある。
- ✓ 相談者の心理的負担軽減のため、少しの情報のために1日に何度も電話をかけるのではなく、確認する・伝えるべき情報を取りまとめたからかけるべき。
- ☆ プロジェクトでは、頂いた評価結果を元に今後の電話相談員研修を実施します。

今後の主な活動予定

- ・ 電話相談員研修開催
- ・ Decree No.9の改定
- ・ IAWT ミーティング開催
- ・ VWU との NPA の実施状況調査
- ・ DOLISA フォーカルポイントセミナーの開催
- ・ 各種広報活動の実施

外部評価者 Duc さんからのメッセージ

今回、外部評価をして頂いた心理学教授のDucさんからメッセージを頂きました。

— ダナンとアンザンの地域コールセンターで、カウンセラーは仕事に必要な能力と尊厳をもって業務にあたっていました。カウンセラーは積極的で、一生懸命担当業務を遂行し、所属する組織内外の同僚を助けています。態度については、カウンセラーは相談者を尊重し、熱意をもって接しています。知識の面では、コールセンターに寄せられる相談に対して、カウンセラーの知識で対応できています。カウンセリングの技術は向上してきており、レファラルも緊密なモニタリングと指導できちんとできています。今後は、カウンセリングの技

術のより実践的な練習をする研修を、そして特定のケースに基づく問題の把握とプロセスについての研修を実施し、カウンセラーの能力を強化できると良いと思います。—



外部評価をして頂いた Duc 教授

プロジェクトメンバー

- 岩田 雅子 : 総括/省庁間連携/研修管理 1/人身取引対策 2/ジェンダー 2
 - 栗田 貴之 : IT、機材調達/啓発活動 1
 - 岡野 鉄平 : 業務調整/研修管理 2/啓発活動 2
- 本ニュースレターやプロジェクトに関するお問い合わせは、
t-okano@icons.co.jp (担当:岡野) までお気軽にご連絡下さい。